

総合解析方針の基本的考え方

資料 4

- 総合解析では、大きく分けて3つのアウトプットを想定し、いずれも過去50年間の基礎調査データをベースとして、他主体による自然環境調査や既存の社会経済データ等も加えて、可能な解析を検討する。

①日本の生物多様性の現状や特徴、過去50年間の変化を、視覚的・直感的に分かりやすく示す（例：地図、グラフ、模式図）。

- 一般向けの普及啓発素材の提供
- 後述②③のベースデータ。
- 今後の基礎調査（特にセンサス目的）の初期値・ベースライン。

②過去50年間における直接要因の変化を踏まえ、保全・再生などの対策の効果などを明らかにする。

- 一般向けの普及啓発素材の提供。
- 過去施策の効果検証
- JBOや国家戦略の指標の補完。

③今後想定される新たな環境課題に対して必要なデータや解析結果を示す（EBPM）。

- 新たな社会・政策課題と密接に関わる解析。
- 基礎自治体への情報提供（地域戦略・都市計画など）

<参考> ヒアリングで出た解析テーマ例の整理

	解析テーマ例	対象種・生態系等
A. 生物多様性の状態	重要生態系やその構成要素の過去50年間の変化 野生生物種の過去50年間の変化 モニ1000データに基づくトレンド評価	重要な自然生態系 絶滅危惧種 特定の生態系を代表する種 鳥獣害が問題となる種
B. 生物多様性の変化要因	気候変動影響の植物群集に対する影響の把握	高山植物
C. 保全対策や取り組みの状況	動植物種の生息適地と保護地域とのギャップ分析	絶滅危惧種 国内希少種指定候補種
D. 保全対策の優先度や効率性	絶滅危惧種の分布が集中し保全効果が高い地域の抽出 再生エネ導入におけるセンシティブティマップ 耕作放棄地の分布 OECM候補地の抽出 自然災害と生物分布・生物多様性との関係（Eco-DRR、グリーンインフラ、OECM等）	絶滅危惧種 里地里山